

令和7年度 第4回下松市地域公共交通活性化協議会

議事要旨

○日時：令和8年3月26日（木）13：30～14：15

○場所：下松市役所 1階 103会議室

○出席委員：19名（欠席3名）

中山委員、河合委員、西嶋委員、河村英委員、河村憲委員、清水委員、田中委員、浅本委員、相本委員、逸見委員、古田委員、桑原委員、國宗委員、弘中委員、大木委員、石丸委員、田村委員（代理：磯部氏）、安野委員、井上委員

○事務局：企画政策課（高谷、田中、内富、品川）

○オブザーバー：株式会社バイタルリード

1 開会

2 議事

(1) 下松市地域公共交通活性化協議会の予算について（令和7年度・令和8年度）

資料1を基に事務局から説明。

- ・国からの補助金を下松市地域公共交通活性化協議会で受け取るようになったため、令和7年度分から本協議会の中で予算を諮るものである。
- ・令和7年度の歳入は1,135,000円の地域公共交通確保維持改善事業費補助金（令和7運行年度（令和6年10月～令和7年9月運行分））を含む1,139,000円、歳出は1,139,000円である。
- ・令和8年度予算案についても令和7年度と同額としたい。
- ・監査委員については、大木委員と安野委員に内諾をいただき、お願いしている。

発言者	発言要旨
会長	ご質問、ご意見等はないか。
	(なし)
会長	議事1について承認いただける方の挙手をお願いしたい。
各委員	(全員挙手)
会長	全員挙手と見受けられる。議事1については承認とする。

(2) 笠戸島地区コミュニティバスの運行開始に向けた協議について

資料2を基に事務局から説明。

- ・防長交通が運行している深浦線は利用者が少なく廃止の候補となっていることから、下松市が運行主体となり自家用有償旅客運送としてコミュニティバスの運行を行う。
- ・そのため、コミュニティバス米泉号ですでに登録している区間以外について追加するため、自家用有償旅客運送の変更登録を行うものである。
- ・運行事業者は公募型プロポーザルにより（株）周南近鉄タクシーを選定した。
- ・島内3カ所にフリー乗降区間を設定し、利便性の向上を図る。

- ・運行便数は日曜・祝日、年末年始を除く1日5往復（10便）となる。
- ・下松駅前からサイコロトイレまでは一律200円、下松駅前から周南記念病院の間で乗降が関わる場合は300円とする。
- ・防長交通の既存路線と重複する区間は乗車また降車の制限を設ける。

発言者	発言要旨
会 長	ご意見等はないか。全体を通して最後にもお尋ねする。
	(なし)
会 長	議事2について承認いただける方の挙手をお願いしたい。
各委員	(全員挙手)
会 長	全員挙手と見受けられる。議事2については承認とする。

(3) 防長交通株式会社の運行する路線バスの路線廃止について
資料3に基づき、事務局から説明。

- ・防長交通が運行する深浦線について、令和8年10月1日よりコミュニティバスに切り替わることから当該路線を廃止することについて運輸局に届け出るために諮るものである。

発言者	発言要旨
会 長	ご意見等はないか。よろしいか。
会 長	議事3について承認いただける委員は挙手をお願いしたい。
各委員	(全員挙手)
会 長	全員挙手と見受けられる。

(4) 下松市地域公共交通計画の改正について
資料4に基づき、事務局から説明。

- ・自家用車以外の観光の足の不足が本市の課題となっており、下松市地域公共交通計画に観光の足について「2 下松市公共交通の課題」の(4)、及び事業4の事業例に追記するものである。

発言者	発言要旨
会 長	ご意見等はないか。
会 長	特にないようであれば、議事4の改正について承認いただける方は挙手をお願いしたい。
各委員	(全員挙手)
会 長	全員挙手と見受けられる。

3. 報告

(1) 米川地区コミュニティバス「米泉号」の利用状況について
資料5を基に事務局から説明。

- ・米泉号の利用者数はR7年4月～R8年2月の11カ月間で1,747人、昨年同期よりもやや減少。

- ・便別では、2便は利用者が多い一方で、平均が1人に満たない便も多く、特に7便は利用者無しの便が8割以上を占める。
- ・予約運行エリアの利用についても昨年度より減少しており、実予約者数は9名である。

(2) 下松市地域公共交通計画の評価指標の推移について

資料6を基に事務局から説明。

- ・評価指標の今年度把握分について報告する。
- ・「①公共交通の年間利用者数」は、2,400,044人で前年度より約20万人増えて目標を達成。
- ・「③路線バスの収支率」は、57.5%で目標を達成。
- ・「④公共交通の維持に係る行政負担額」は、69,480千円でやや増加。
- ・「⑤幹線バスの運行便数」は、172便で前年度から変化なし。
- ・「⑥交通結節点としての機能の整備件数」は、昨年度に続き0件。
- ・「⑦支線（市内完結路線）で鉄道への乗継を考慮した便の割合」は、78.0%で微増。
- ・「⑧交通空白地の居住人口の割合」は、25.1%で維持。
- ・「⑨待合環境の整備件数」は、昨年度に続き0件。
- ・「⑩ICカード利用率（路線バス）」は、52.0%と前年度より微増。
- ・「⑪乗り方教室・出前講座の開催回数」「⑬関係者と協働により実施した事業件数」は、防長交通と市の協働による、くだまるシェへのバスの出展の1件。
- ・「⑭路線バス運転士の充足率」は、94.0%で微減。

発言者	発言要旨
会長	報告事項について聞きたいことはあるか。 全体を通してご意見はないか。
田中委員	笠戸島の県道沿いに簡易トイレが設置されている。観光のために設置されたと思うが、オムツを変えにくいなど利用しにくいところもあり、市から来た人はどう思われるだろうか。できれば道路沿いにちゃんとしたトイレを設置すべきではないか。大城にトイレはあるが、市外の人が行くのは難しいので、せめて電光掲示板でトイレの案内があればいいと思う。観光を謳う以上はしっかりとしたトイレを設置してほしい。
会長	笠戸島は下松市の観光拠点として謳っており、気持ちよく訪れていただけるようなことを考えていかないといけない。R8年度には笠戸島地区の観光にかかる計画策定を行う。トイレも課題の1つであるので、計画の中に盛り込まれると理解している。大城、栽培漁業センター、ハイツ跡地、島の学び舎を結ぶような形で、計画の中で検討させていただきたいと考えている。 米泉号の報告の中で前年度より利用者減少しているということであった。交通不便の対策としていろいろな手段を考えているが、気持ちよく利用していただき、利用者数を増やすのも役割の1つだと思う。利用者が減ることになれば利用促進について皆様からぜひご意見をお聞かせいただきたい。市議会でも、高齢者へのバス・タクシー利用助成券についてコミュニティ交

	<p>通にも使えないかというご意見があり前向きに検討を進めている。協議会の中でコミュニティバスの利用促進もしっかり考えていきたい。他にはないか。</p> <p>意見等ないようなので、議事、報告を以上で終了する。</p> <p>事務局から連絡事項があればお願いします。</p>
--	---

4. その他

令和8年度の主要な事業予定について事務局から説明。

- ・笠戸島地区コミュニティバス運行、市街地路線の新規路線の運行を予定している。
- ・6月下旬ごろに第1回協議会の開催を予定している。

発言者	発言要旨
会 長	<p>議事、報告、連絡については以上で終了する。</p> <p>以上で第4回下松市地域公共交通活性化協議会を閉会する。</p> <p>ありがとうございました。</p>

— 委員名簿 —

	所属	役職	氏名
1	下松市	企画財政部長	中山 昇
2	防長交通株式会社	乗合営業部長	河合 貴志
3	西日本旅客鉄道株式会社 広島支社 地域交通（山口）	課長	西嶋 俊輔
4	メトロ交通株式会社	取締役	河村 英輝
5	周南近鉄タクシー株式会社	取締役総務部長	河村 憲朗
6	一般社団法人 山口県タクシー協会	理事	清水 延隆
7	下松市自治会連合会	会長	田中 豊
8	シニアクラブ下松	副会長	浅本 輝明
9	社会福祉法人下松市社会福祉協議会	常務理事	相本 美重子
10	下松市小・中学校 PTA 連合会	末武中学校 PTA 会長	逸見 勇介
11	下松市連合婦人会	会長	古田 尊子
12	下松市	健康福祉部長	桑原 健一
13	中国運輸局山口運輸支局	首席運輸企画専門官	國宗 裕司
14	私鉄中国地方労働組合防長交通支部周南分会	分会長	弘中 賢男
15	中国地方整備局山口河川国道事務所	交通対策課長	東 耕司
16	山口県周南土木建築事務所	企画調査室主幹	藤原 新
17	下松市	建設部長	大木 則英
18	下松警察署	交通課長	石丸 新太郎
19	徳山工業高等専門学校	土木建築工学科准教授	河野 拓也
20	山口県観光スポーツ文化部	交通政策課長	田村 良雄
21	下松商工会議所	専務理事	安野 政行
22	下松商業開発株式会社	取締役社長	井上 雅裕